

地研通信

発行人 足田敬志
 編集人 水谷 勇
 発行所 三重短期大学地域問題
 総合調査研究室
 津市一身田中野字蔵付157番地
 〒514-01 TEL(0592)32-2341

題字 岡本祐次学長

東紀州地域の生涯学習の現状と課題

水谷 勇・佐武千恵子・東福寺一郎

1. 尾鷲地域の生涯学習推進状況

(1) 尾鷲地域の概要

尾鷲地域は、尾鷲市、北牟婁郡（紀伊長島町、海山町）の1市2町から構成される。この地域は、東は熊野灘に面し、黒潮の影響を受けて気候は温暖、海岸線は美しいリアス式である。西には紀伊山脈があり、森林資源にも恵まれている。かつては林業、漁業、船宿、回船問屋などが発展した。しかし、交通手段の主流が海運から陸運へと変遷し、国土幹線から遠く隔てられた結果、産業振興が遅れ、若者を中心とする人口流出が生じ、過疎化が地域の大きな問題となっている。

(2) 各市町の状況

<尾鷲市>

尾鷲市は、紀伊半島東南部、熊野灘沿岸の中心に位置し、昭和29年に1町4ヶ村が合併して誕生した。気候は温暖であるが、日本有数の多雨地帯でもある。第一次産業としては、古くから豊かな自然を活用した林業と水産業が盛んである。水産業は、天然の良好である尾鷲港が遠洋漁業の基地となっているほか、ハマチ等の養殖業も活気を帯びている。一方、工業面では、火力発電所や石油コンビナートが建設され、東紀州地域の中核都市としての地位を確立している。

このような尾鷲市の生涯学習の推進状況を以下にまとめる。

①生涯学習推進と人間性豊かな創造性あるまちづくり

現代の科学技術の進歩、高齢化、国際化、過疎化等、社会構造が急速に変化する中で、市の教育方針「生涯にわたって心豊かでうるおいのある生活を創造する」ことを目標に、市民の多様化、高度化した学習要求に対し、いつでも、どこでも、だれでもが、それぞれの関心、目的に沿った学習ができるような場の整備が目指されている。この点で、現在のところ生涯学習推進組織こそないが、

社会教育施設の整備は順調に進んでいる。特に公民館は14地区に置かれ、全体で21の学級と趣味講座を中心にした110講座が開設されている。しかし、いずれも参加者は高齢者や主婦層に偏り、青年層や勤労者男性が少ない傾向にある。

②市民文化の向上と文化遺産

昭和51年に設置された郷土館では、平成4年末までに21万人近い入場者を記録した。ここは市史編纂他により、収集・寄贈された文書群が多く、市民の共有財産として価値が高い。平成6年度には、市制40周年記念事業として「尾鷲市年表」の編集作業がここを中心に進められることになっている。三重県移動博物館や斎宮入門講座など多彩な事業も開催されており、地方の文化に寄与し、市民に親しまれている。今後は、さらにネットワーク化、文庫カードの電算化などがなされると思われる。

「せぎやまホール」の愛称をもつ市民文化会館は総合まちづくり事業として建設された。このホールではとりわけ音響と舞台照明に力点が注がれているが、さらにこの地域に類例を見ないギャラリーを併設し、多様多岐にわたるジャンルに対応できるよう設計されている。このように、文化会館は尾鷲市のみならず、この地域の文化の発信基地として育まれている。

その他、親子銀河教室や多彩な事業・イベントが開催される天文科学館、青少年健全育成を目指し、体験学習を含めた研修の場である少年センターなども、生涯学習推進上重要な施設である。

③スポーツ振興と地域社会の人間育成

「健康都市宣言」をしている尾鷲市では、市民の健康と体力増進のために、運動施設の充実と生涯スポーツ振興に力を注いでいる。ひとりでも多くの市民がスポーツ活動に楽しく参加できるように体力づくり教室や多種目にわたる指導・育成事業が行われている。

④社会教育関係団体の育成と自主活動の促進

加入団体数が40を越す社会教育関係団体としては、子ども会、婦人会、PTAなどの連絡協議会、青少年育成市民会議、文化協会などがあり、これらの団体への援助を図る中で自主活動の活発化が期待されている。

勤労者の生涯学習推進については、各施設の利用時間を柔軟に配慮するほか、地区公民館活動の促進を目指している。しかし、公民館職員の常勤化や、開設講座の継続的な講師・指導者の不足が県中心部から遠く離れる地域特有の悩みとして存在する。

⑤学校教育と社会教育の連携

学校教育と社会教育の連携については、学校施設・設備の開放はもちろんのこと、学校で保護者を対象にした講演会を開催したり、教師が公民館に出向く、あるいは地域の人材を学校行事に活かすなど、人的な交流を含め相互の協体制が確立されている。天文学館や市民文化会館などの施設を学校教育の一環として活用することもある。

⑥課題

高齢者学級、定期講座などの受講者は女性が圧倒的に多く、今後いかに男性受講者を増やしていくか、また青年層も加えて、どのような学習を希望し、魅力のある講座を的確に把握した対応が必要である。従来の趣味、教養の向上を目指し、さらに職業技術に関する講座の開設も必要であろう。

<海山町>

海山町は昭和29年に4町村が合併して誕生した。主要産業は林業、水産業であるが、近年弱電機器部品製造業の進出も見られる。平成3年に策定された第3次総合計画では、「生かそう自然つくり活気あふれる町“みやま”」を目標に、町民誰もが「住んでいたい町」「安心して暮らしていける町」の形成が目指されている。

生涯学習推進の現状についてみると、海山町には、生涯学習推進上設けられた特別な組織は存在しない。生涯学習推進に重要な役割を果たす社会教育施設としては、公民館6、教育集会所2、町営グラウンド、中学校テニスコート、町総合体育館がある。このような海山町が生涯学習推進上重点施策としていることは、

- ①過疎化への対応として、地域の活性化を図るような事業を用意する
- ②学校教育と社会教育を有機的に連携させる
- ③生涯学習の重要性について、住民に対する啓発をする
- ④世代間交流を促進するようなプログラムを用意

する

⑤指導者の発掘、育成をする

である。特に学校教育と社会教育の連携については、老人会員が学校で生活体験を語ったり、地域文化の伝承に一役買っている。また、中学生がログハウスを造ったり、駅前の清掃活動に従事するなどの活動を行っている。一方、生涯学習推進上の障害となっている主な事柄としては、講座や学級の受講生の固定化傾向、地域の過疎化、集落の分散と交通網の未整備が挙げられる。

また、ふるさと美化運動（町民会議、PTA、子ども会）、80歳以上の独居老人を対象にした愛の一声訪問（婦人会）、基地清掃（老人会）等、各種団体によるボランティア活動が盛んである。

<紀伊長島町>

昭和45年に長島町が町名変更し、現在の紀伊長島町が誕生した。北牟婁郡の北部に位置する当町は定置漁業、近海漁業と紀州材で知られる漁業と林業の町である。また、豊かな自然環境の中でレクリエーション・リゾート地域を目指し、施設整備等が進められている。

生涯学習推進の現状についてみると、紀伊長島町には、生涯学習推進上設けられた特別な組織は存在しない。生涯学習推進上重要な役割を果たしている施設としては、公民館7、資料館、教育集会所5、体育館、屋外スポーツ場、公園、高等学校、ふれあい広場マンドロ、若者センター、フィットネスホール、オートキャンプ場など、多様な施設が回答された。また、生涯学習推進上の重点を置いている施策は、

- ①高齢者の生きがいに重点をおいたプログラムを用意する
- ②生涯学習の観点から他部局との連携、生涯学習関連事業を合理的に推進させる
- ③施設の利用時間を弾力化し、受講生が受講しやすい時間に講座を開講する
- ④住民の学習要求を調査を通じて捉え、それに対応したプログラムを用意する
- ⑤英会話、パソコン入門など時代の要請に応えた講座を開講する

である。ユニークな試みとして、造船所で働くブラジル人労働者を講師に招いて、料理の講習を受けたり、外国の話を聴くなどして少しでも国際感覚を身につけようとする講座が設けられている。一方、生涯学習推進上の悩みには、講座や学級の受講生の固定化傾向、教育委員会事務局の過重負担、予算不足が挙げられた。

(3) 尾鷲地域の課題

以上、尾鷲地域の3市町の生涯学習推進の現状について述べてきたが、今後この地域が取り組む必要のある課題をいくつか指摘したい。

まず第1に、地域住民の高齢化問題へ対処していかねばならない。世間には生涯学習推進は高齢化対策であるという認識が見受けられる。これ自体は生涯学習に対する偏った理解であるが、随かに高齢者の学習機会を保障し、実りある高齢期を過ごせるようにすることは大切なことである。高齢期は発達上個人差がきわめて大きい時期であり、身体的にも精神的にも健康である人もいれば、一方で早くから老け込んでしまう人もいる。また、何か活動をしたくとも健康面で障害のある人もいる。高齢化の著しい地域での生涯学習を推進するに際しては、このような個人差に対するきめ細やかな配慮が必要とされる。基本的な考え方として、学習意欲のある人々に対しては、学習要求に応じた講座・学級を用意するとともに、社会参加に向けて啓発していくことが重要である。すなわち、心身ともに健康な高齢者には、健康を損ねた高齢者の学習活動を支援したり、あるいは蓄積された経験や知恵を次世代へ伝達する役割を担うことを期待したい。

第2に、過疎化への対応も緊急課題である。過疎の解消施策についてはここでは問わないこととし、過疎化という現実の中でまず必要とされることは、市や町の中心部と周辺に散在する小集落を結ぶ交通網ないしは交通手段を整備することである。例えば、運転免許を持たない高齢者を中心にした住民への配慮として、バスを巡回させるなどの手段が考えられよう。もし、それが難しければ、地域ごとに施設を整備するとともに移動公民館や出前講座などで対応することも考えられよう。

第3に、各市町において生涯学習推進組織を設置することが緊急の課題である。しかも、組織を形式的に設置するのではなく、上記に述べたような課題等、生涯学習推進方策について実質的な審議と提言がなされるように、全町的・全庁的に人材を求め、会議を有効に機能させていかねばならない。

最後に、尾鷲市を中核にして3市町が連携する広域学習圏の構築を提唱したい。現在は一般に、各市町村単位で生涯学習推進が構想されているが、これからは近隣市町村が連携をとりつつ地域住民にとって有効な生涯学習環境の整備を図っていくべきである。学習情報の交換や施設利用に関する提携を行ったり、担当者レベルの研修・交流がよ

り緊密に実施されることが望まれる。また、必要であれば、地域全体としての推進組織を設置することも検討に値する。

2. 熊野地域の生涯学習推進状況

(1) 熊野地域の概況

熊野地域には熊野市など1市3町1村が含まれ、鶴殿村を除いて過疎化・高齢化が進んでいる。そのためあって、この地域では全地区で社会体育が盛んで、行政もまたその施設整備に努めている。なお、社会教育課があるのは熊野市のみで、他の町村では1人ないし2、3人の職員が非常に多岐にわたる生涯学習関連の仕事に携わっている。

今回のアンケート調査によれば、生涯学習推進のための組織があるのは御浜町だけで、他は設置の予定もない。この地域は、全般的に生涯学習後進地域と言われているが、これは県の中心・人口密集地から遠く離れ、過疎化の進む地域（とりわけ山間部）を多く抱えることもあって、施設の設置場所、企画の実施場所に四苦八苦するとともに、講師・指導者などの人材確保や参加者の人寄せに苦勞していることが大きく作用しているようである。アンケート調査でも、指導者不足、スタッフ不足との悩みが共通して記入されていた。

(2) 御浜町の状況

御浜町は、農業を基幹とした町で、特に「年中ミカンのとれる町」をキャッチフレーズに柑橋を基幹作物として栽培している、面積88.28k㎡、人口10,163人の町である。また、御浜町は観光にも力を入れており、1987年6月には建設省に認定されたC C Z整備計画（海辺のふれあいゾーンづくり）についても積極的に事業を展開し、拠点施設であるパーク七里御浜モール“ビネ”もオープン、この近辺を重点的に整備しながら、ここで祭や巨大イベントを開催するなど、新しい町づくりに積極的に取り組んでいる。

こうした積極的姿勢は生涯学習に対してもみられ、1989年には生涯学習推進会議を設けて、生涯学習の推進に取り組んでいる。生涯学習推進会議は、社会教育委員と公民館運営審議会委員とによって構成され、年2回開催されて、町教育委員会の生涯学習に関する方針および活動総括を審議している。この推進会議における方針決定を受けて、生涯学習活動の実質的な調整・推進は、公民館長会議（年3回開催）がその役割を果たしている。

中央公民館を頂点に、すべて独立館からなる6つの地区公民館（館長は非常勤）を有し、社会教

育の充実とともに、公民館活動として婦人学級及び家庭教育学級、その他高齢者教室、スポーツ少年団等の活動も活発である。地区公民館では住民要求に応えた趣味・教養講座が主体（参加主体は農村婦人）だが、中央公民館は指導館として指導者養成、大規模イベント主体に行っておりその機能分担を明確にしている。また、特に尾呂志などでは高齢者が多いが、地区活動が盛んで、世代間交流などの取り組みも活発に行われている。公民館活動の活性化において、約4,500戸全戸配布される「公民館だより」が大きな力を発揮している。また、公民館は入門的なものとし、2年間は公民館の学級として行うが、その後は自主サークルとして自主運営できるよう育成することに心がけている。ほとんどの施設が毎日貸し館としてもしくは学級・講座で空きがないほど埋まっており、南牟婁郡一活発な学習活動が展開されている。このため、初心者学習成果の発表の場として「公民館まつり」を、上級者の発表の場として「町民文化祭」をそれぞれ用意している。

福祉センターは、1992年に完成し、高齢者の生涯学習の機会と場が充実した。しかし他方、福祉センターの完成により、これまで教育委員会社会教育課が調整していた高齢者の生涯学習は教育委員会、福祉センター（福祉課）それぞれで行われることになり、連携・総合化の点で問題をもつことになった。今後、高齢者（福祉）はもとよりあらゆる生涯学習事業について、その企画内容等について行政において全庁的な調整を行い、重複を避け、効率を上げることでより良い内容を住民に提供することが求められる。

また、ふるさと人づくり事業として、富士山の麓に小・中学生を1週間派遣して外国人と交流させる国際交流事業を行っているほか、山海交流として長野県梓川村とみかんとりんごのフルーツ友好親善交流を町ぐるみで行い、学校教育・社会教育の分野でも同村と交流している。また、学校五日制が試行されたことにより、休みとなった第2土曜日を利用して小・中学生と地域の高齢者の世代間交流を兼ねた畑づくりが始められた。

町では、第3次長期総合計画において、「明るく住みよい豊かな町づくり」をテーマに活力ある地域にするため、国際化、過疎化、高齢化、情報化に対応できる資料の収集と人材育成を主体とした「御浜町ふるさと特派員制度（1992年度～）」、「御浜活性化塾（1991年度から）」といった事業に取り組んでいる。前者は、町出身者195人を特派員に任命し、町の活性化に対する提言・支援を

得たり、町のPR活動に従事してもらうもので、後者は、異業種の代表24名を塾委員とし、農業振興のための人づくり、組織づくり、農業活性化や地域資源を活用した農村活性化のための提案と活動をしてもらうとともに、各種産業の情報交換と振興のための方策を検討することを目的とした事業である。こうした町づくり事業も生涯学習の振興、気風づくりに一役買っている。

婦人学級（中央公民館の行う婦人大学を含む）は、地区婦人会との共催で行われ活発である。しかし、これ以外には関係団体との連携が全くと言ってよいほど行われていない。

御浜町では、高齢化が特に進んでおり、70歳以上の人が7人に1人以上と、2割に近づく勢いである。しかし、このことによって生涯学習が沈滞すると言うよりも、既に述べたように、高齢者の学習が盛んであるだけでなく、世代間交流など、元気な高齢者を活用した取り組みがなされて、町の活性化に寄与している。

生涯学習を活性化させる手だてとして、学級・講座の平日夜間ないし土・日開催の試みが行われている。地区公民館で行われるほとんどすべての事業は夜間に開催されており、中央公民館では、婦人大学が夜間（7:30～9:00）に、寿大学が土曜日・日曜日に開催されているほか、専門の職員を配置した上で土曜日・日曜日の開館を実現している。これは町が生涯学習に力を入れていることを示すもので主催者側の公務員としての勤務体制を中心に考えるよりもむしろ、町民の実態にあった弾力的な講座の開催、施設の開館に努めているからである。ただし、このために職員は変則勤務を強いられており、一部の熱意ある職員の犠牲的精神に支えられていると言える。職員に過度の負担をしわ寄せをしない体制づくりが今後の課題となっている。

このほか、御浜町では、この地域の他の市町村と同様に、「担当職員が少なく、指導者の人材も乏しいため、十分な企画ができない」「地域の過疎化が進行している」「集落が分散、交通網が未整備のため、全町的な取り組みが難しい」との悩みを抱えている。

御浜町はまた、過疎化に対しては生涯学習はじめ、行政、各団体で県等の研修に出たりして勉強していることがよい効果があると評価している。御浜町は、公民館の改修と、公民館内にある図書室の独立（図書館新築）の計画を持っているが、図書館だけでなく資料館との複合施設を作るべしとの構想を生涯学習担当者はもっている。

(3) 鶴殿村の状況

鶴殿村は、紀州木材の集散地として知られた“木材の町”で、紀州製紙の工場のほか7つの製材工場がある。面積2.88k㎡と日本一小さな村の中に、人口4,711人、1,698世帯が居住している。

鶴殿村では、村民生活の中に潤いと安らぎを求める場所、さらには快適な空間づくりが必要になってくると考え、今後の状況を推察しながら、21世紀における村の地域づくりの基本構想として、自然環境の整備と人材の育成を主体として進めている。「人材育成事業」（1990年度～）は、21世紀を担う青少年、ふるさと作り推進母体、村活性化推進に寄与する人材の育成を図ることを目的として人材育成基金を創設し、5千万円を基金として積み立て、利息をもって各種事業を行っている。使途については、人材育成事業推進協議会で検討・決定している。

鶴殿村立図書館は、価値観の多様化、情報化、国際化と激しく激動する社会に対応すべく、文化的意欲を高めるための学習施設として、1991年度に建設された。建物は鉄骨造り2階建てで、1階には書庫、児童コーナー、事務室などがあり、2階にはテレビ、ビデオ等を備えた視聴覚室、親子の読み聞かせや講演活動などの場として利用できる研修室が設けられている。蔵書数は一般書、幼児・児童書、新聞・雑誌等約2万冊で、近い将来3万冊の蔵書をめざしている（ちなみに、現在の2万冊という蔵書数は尾鷲・熊野地区随一の内容である）。また、村の歴史に関する資料、村にゆかりの熊野水車や製紙などの郷土資料の充実も計画している。図書館では、読書意欲の発掘・喚起に積極的に取り組み、幼児のための読み聞かせ教室や学校5日制対策も兼ねた、紙芝居や親子教室などの各種企画を実施し、生涯学習の中核的施設のひとつになっている。

鶴殿村在住の文化人・文化サークルが結集して1989年から鶴殿村文化協会が発足活動している。協会主催もしくは後援の講座や講演・公演も毎年幾つか開催されている。1992年8月現在、12の団体（サークル）が参加しており、行政（教育委員会）から一定の補助を受けているものの自主運営しており、村民の文化活動の中核として活躍している。この協会は、公民館の利用者・公民館講座の卒業生が主な担い手であり、また公民館講座の講師などの指導者を輩出する役目も果たしている。

鶴殿村は、村民の平均年齢約37歳で、就労する若者が多いという特色がある。こうした特色に対応するため、村では、勤労男女を対象に公民館講座

やスポーツ教室を原則的には夜間に開催している。公民館講座の内容は、陶芸、料理、生け花、手芸、書道、七宝焼などで、女性のための教養講座（これと陶芸教室のみ昼間実施）もある。スポーツ教室は村立の体育館、テニスコート、屋外スポーツ場を活用して、ミニバレー、ソフトテニス、硬式テニス、ゴルフなどの教室が行われている。こうした施設は、教室が開催されないときにはサークル等によって利用され、空いていることがほとんどないほどに活用されている。

こじんまりとしていて小回りが利く関係で、公民館講座の開催や図書館作りに際して、地区委員（29人）を通して、全住民の意見・要望を徹するように教育委員会・村行政は心がけている。このように、村行政は、施設の利用時間を弾力化し、受講生が受講しやすい時間に講座を開講するとともに、住民の学習要求を調査を通じて捉え、それに即応したプログラムを用意するように努めており、高く評価できる。

また、各部署が独自に行うことによる人の取り合い、重複、参加者の多忙化を防ぐため、たとえば、高齢者教室は福祉課と一緒に福祉センターで行うなど、参加者（施策の対象者）の立場に立って、総合的に何をなすべきかを考えて、もっとも相応しいところが中心となって行うよう努めるなど、他部署との連携を積極的に図り、生涯学習関連事業を合理的に推進するよう努めている。この精神は教育委員会部署内でも生かされ、生涯学習の主担当は社会教育（公民館）だが、スポーツ教室は社会体育が、幼児教室は幼稚園の協力を得て図書館が、といった具合である。

村の経済を支え、若者人口を養う元となっている紀州製紙の工場は従業員福利厚生施設として立派な体育館等を有しているが、従業員の半分以上が村民であるので、会社が従業員及びその家族を対象に行う、ストレッチ体操や気功・太極拳、ジャズダンス等に村が後援することで、企業の福利厚生活動を奨励・支援するとともに、村の社会体育の場として活用している。

<行政の認識する今後の課題>

講師・指導者の発掘・確保に努めているものの、県の中心から遠く離れており、課題となっている。すなわち、県が講師名簿等を整備しても、北・中勢部が主で、熊野地域まで足を運んでもらいにくく、また、県主催の行事も、津地区が多く、せいぜい伊勢、尾鷲なので参加・活用が難しい。このため、講師を隣接する和歌山県新宮市在住者に求めるなど、やりくりしている。

このほか、小さな村にもかかわらず、生涯学習関連施設は多く充実しているが、住民ニーズとの関係ではまだ少ないとの認識に立っており、テニスコートの増設、グラウンドの拡幅など、運動施設の改修・増設を計画している。

同様に、生涯学習関連企画の立案・実施に際して、前述のような努力をしており、他と比べると格段に充実しているが、住民ニーズとの関係では、担当職員が少なく財政的にも限られているため十分な企画ができないとの悩みがある。

(4) 熊野市の状況

全小学校が地区公民館を兼ねており、学校開放は最も進んでいる（校長が館長、教頭が公民館主事）。高齢化に対して、世代間交流の行事として、学校教育の一環としてもしくは社会教育として、古老より地域の民話を聞く、凧づくり、しめ縄・わらじづくり、などを行っている。

社会体育では、インディアカに最も力を入れているほか、グラウンドゴルフ、ゲートボール、カヌーといったものも盛んである。学生時代に体育で活躍していた若・壮年の人が少年スポーツを指導してくれており、少年期からスポーツは盛んという風土がある。また、学校の先生中心のレクリエーション活動も活発でウォークラリー、スポーツレク祭などもある。

商工会議所を中心に、21世紀の熊野を考える会をつくり、学習会を年1、2回行っている。

国際化に対応するため、川上横町商店街では1千万円を基金として小学6年生の子を5人ほど海外短期留学させている。

(5) 紀宝町の状況

担当者一人という中で、悪戦苦闘しながら、県や地区の仕事、広い町内で町のルーティンともいうべき仕事をこなしていくのがやっとなりで、担当者も新企画を立てるなどのゆとりを持って取り組めない状況にある。これは他の市町村にも、時に当てはまることで、生涯学習の担当者にはとりわけ、適所適材、スペシャリスト養成が求められるにもかかわらず、ローテーションを重視した人材配置、ジェネラリスト養成という人事政策ゆえにもたらされる困難である。

しかし、町としては、町づくりは人づくりであるとして、社会教育を重視し、社会教育基本構想を持って活動を進めようとしている。そのキャッチフレーズは「心豊かな人づくり」で、成人期、高齢期の文化活動・スポーツ活動に力を入れている。その中心は公民館で、9地区に配置された地区公民館は社会を明るくする運動を主眼に運営さ

れ、地区運動会、奉仕活動、レクリエーション等が行われている。また、体育施設には、町民グラウンドとテニスコート4面、町民体育館があり、広く利用されている。4つの小学校で夜間照明が完備されて開放されており、地域住民のスポーツ振興に供している。

なお、1992年度には、30年ぶりに地域の文化的伝統行事である「スズキ追い」が復活した。こうした地域の文化伝統を守り育てていくことも今後の課題である。

(6) 紀和町の状況

高齢者教室（133名参加）、婦人学級として踊り、生花、書道等の趣味講座開催、少年スポーツ教室、文化講演会の実施等、をこなしている。

鉾山資料館建設の計画があり、1993年10月に着工される予定である。町は、こうした鉾山跡や自然環境を生かして、都市住民に対して、自然とふれあう場を提供するグリーンツーリズムに力を入れ、町の活性化を図ろうとしており、町民にとっても、来訪者にとっても、ここから新しい生涯学習が芽生えていくであろう。

社会体育も盛んで、ソフトミニバレーボールをはじめ、テニス、ソフトボール、グラウンドゴルフの大会が開かれ、歩け歩け大会、軽スポーツ教室などが実施されている。

3. 尾鷲・熊野地区の生涯学習推進状況に関するアンケート調査の結果

1. 生涯学習を推進するために設けられた特別の組織

ある 御浜町：名称：御浜町生涯学習推進会議
時期：平成元年
機能：関係機関の連絡・調整。
推進方策の策定。啓発。
調査・研究。

なし（上記以外の全市町村）

2. 生涯学習推進上、重要な役割を果たしている施設

【尾鷲市】公民館、文化会館、体育館、屋外スポーツ場、公園、小中学校、高校、カルチャーセンター・稽古塾、青年の家、天文科学館、民間（プール）

【海山町】公民館、体育館、小中学校

【紀伊長島町】公民館、資料館、集会所、体育館、屋外スポーツ場、公園、高校、公立（ふれあい広場マンドロ、若者センター）、民間（フィットネスホール、オートキャンプ場）

【熊野市】公民館、図書館、資料館、市民会館、
体育館

【鶴殿村】公民館、図書館、体育館、屋外スポーツ場

【御浜町】公民館、図書館、福祉センター、町民会館、体育館、小中学校

【紀宝町】公民館、福祉センター、体育館、公園

【紀和町】体育館、屋外スポーツ場、野外キャンプ場、小中学校、コミュニティ・センター

3. 生涯学習推進上の重点施策（5つまで）

【尾鷲市】

- (2) 生涯学習関連施設をさらに整備
- (5) 高齢者の生きがいに重点をおいた学習プログラム
- (10) 施設の利用時間の弾力化。受講生が受講しやすい時間に講座を開講
- (13) 世代間交流を促進するようなプログラムを用意
- (16) 指導者の発掘、育成

【海山町】

- (4) 過疎化への対応として、地域の活性化を図るような事業を用意
- (6) 学校教育と社会教育を有機的に連携
- (7) 生涯学習の重要性について、住民に対する啓発
- (13) 世代間交流を促進するようなプログラムを用意
- (16) 指導者の発掘、育成

【紀伊長島町】

- (5) 高齢者の生きがいに重点をおいた学習プログラム
- (9) 生涯学習の観点から他部局との連携、生涯学習関連事業を合理的に推進
- (10) 施設の利用時間の弾力化。受講生が受講しやすい時間に講座を開講
- (11) 住民の学習要求を調査を通じて捉え、それに対応したプログラムを用意
- (17) その他（英会話、パソコン入門など時代の要請に応えた講座を開講）

【熊野市】

- (5) 高齢者の生きがいに重点をおいた学習プログラムを用意
- (7) 生涯学習の重要性について、住民に対して啓発
- (8) 婦人会等の団体活動を活性化
- (10) 施設の利用時間を弾力化、受講生が受講しやすい時間に講座を開講
- (16) 指導者の発掘、育成

【鶴殿村】

- (9) 他部局との連携を図り、生涯学習関連事業を合理的に推進
- (10) 施設の利用時間を弾力化、受講生が受講しやすい時間に講座を開講
- (11) 住民の学習要求を調査を通じて捉え、それに対応したプログラムを用意
- (16) 指導者の発掘、育成

【御浜町】

- (4) 過疎化への対応として、地域の活性化を図るような事業を用意
- (6) 学校教育と社会教育を有機的に連携
- (8) 婦人会等の団体活動を活性化
- (10) 施設の利用時間を弾力化、受講生が受講しやすい時間に講座を開講
- (16) 指導者の発掘、育成

【紀宝町】

- (18) 特に重点をおいていることはない

【紀和町】

- (2) 生涯学習関連施設をさらに整備
- (5) 高齢者の生きがいに重点をおいた学習プログラムを用意
- (6) 学校教育と社会教育を有機的に連携
- (8) 婦人会等の団体活動を活性化
- (16) 指導者の発掘、育成

4. 生涯学習推進上の障害・問題事項（3つまで）

【尾鷲市】

- (3) 講座や学級への参加者が固定化している
- (7) 地域の過疎化が進行している
- (10) 生涯学習推進のための予算が少ない

【海山町】

- (3) 講座や学級への参加者が固定化している
- (7) 地域の過疎化が進行している
- (12) 集落が分散し、交通網も整備されていないため、全町的取り組みが困難

【紀伊長島町】

- (3) 講座や学級への参加者が固定化している
- (6) 生涯学習推進の全庁的な合意が得られず、専ら教育委員会事務局の負担
- (10) 生涯学習推進のための予算が少ない

【熊野市】

- (3) 講座や学級への参加者が固定化している
- (4) 適当な指導者を見つけることが困難である
- (5) 担当職員が少なく、十分な企画ができない

【鶴殿村】

- (1) 生涯学習関連施設が少ないあるいは老朽化している
- (5) 担当職員が少なく、十分な企画ができない
- (9) 県の研修会等に出席したくとも、遠方のため、旅費や時間的な制約が著しい

【御浜町】

- (5) 担当職員が少なく、十分な企画ができない
- (7) 地域の過疎化が進行している
- (12) 集落が分散、交通網が未整備のため、全町的な取り組みが困難である

【紀宝町】

- (1) 生涯学習関連施設が少ないあるいは老朽化している
- (2) 講座や学級を開設しても参加者が少ない
- (3) 講座や学級への参加者が固定化している
- (5) 担当職員が少なく、十分な企画ができない
- (6) 生涯学習推進の全庁的な合意が得られず、専ら教育委員会事務局の負担
- (7) 地域の過疎化が進行している
- (11) 生涯学習推進のための基本的な方向性がまだ定まっていない
- (12) 集落が分散、交通網が未整備のため、全町的な取り組みが困難である

【紀和町】

- (5) 担当職員が少なく、十分な企画ができない
- (7) 地域の過疎化が進行している
- (12) 集落が分散、交通網が未整備のため、全町的な取り組みが困難である

5. 生涯学習推進上、近い将来に実現が予定されていること

【尾鷲市】住民意識調査の実施

【海山町】予定されていることは特でない

【紀伊長島町】公民館の新築、改修
図書館の新築、改修

【熊野市】運動施設の新築、改修（運動公園）

【鶴殿村】運動施設の新築、改修（テニスコート
2面増設、グラウンド拡幅）

【御浜町】公民館の改修
図書館の新築

【紀宝町】予定されていることは特でない

【紀和町】その他の施設の新築＝鉾山資料館（仮称）

6. 生涯学習推進について日頃からお考えのこと
【熊野市】施設の未整備（不足）、指導者や担当

職員の不足、財政上の問題、交通の便等で市内中心部の事業に対し、山間部からの人寄せが不便等々の制約の中で学習者の意欲を十分に汲みきれていないのが現状。

〔受入図書一覧〕

平成5年6月以降に受入れた図書は次のとおりです。

日本の社会学 4	望月 崇・目黒依子・石原邦雄
" 5	三浦典子・森岡清志・佐々木衛
" 7	鈴木 広・高橋勇悦・篠原隆弘
" 8	直井 俊・原 純輔・小林 甫

都市再開発 ハンドブック 平成5年度版

建設省都市局・都市再開発課

岐路に立つ都市再開発 似田貝春門・蓮見音彦
地場中小企業振興事例集

中小企業庁計画部・地域中小企業振興室

日本全都市社会経済特性別将来推計人口データ集

日本能率協会

部落開放史 上

部落開放研究所

" 中

"

" 下

"

全国のあいつぐ差別事件

部落開放基本法制定要求国民運動中央実行委員会

近代と被差別部落

秋定嘉和

宿業論と精神主義

小林龍邦

部落問題解決お到達段階

杉之原寿一

編集後記

今号は、3月31日に行われた第4回地域問題研究交流会（1993年度各研究員の研究活動報告会）での報告を基に原稿をいただいた。全研究員が報告したため、4時間余りにわたる報告となった。今号において掲載できなかった分は次号において掲載する予定である。地研もこの4月から11年目に入ろうとしている。ようやく、自主研究も活性化してきた。原稿集めに四苦八苦していた頃が今では懐かしい。とはいえ、編集部の力不足から招いている遅れ気味の刊行を何とか立て直したいものだ。

桜の花も散り、若葉がまぶしい頃となった。つつじがあちこちできれいに咲き誇っている。先日、久々に紋白蝶を見た。 (M)

花散ると見えてもつれし蝶二つ 良衆